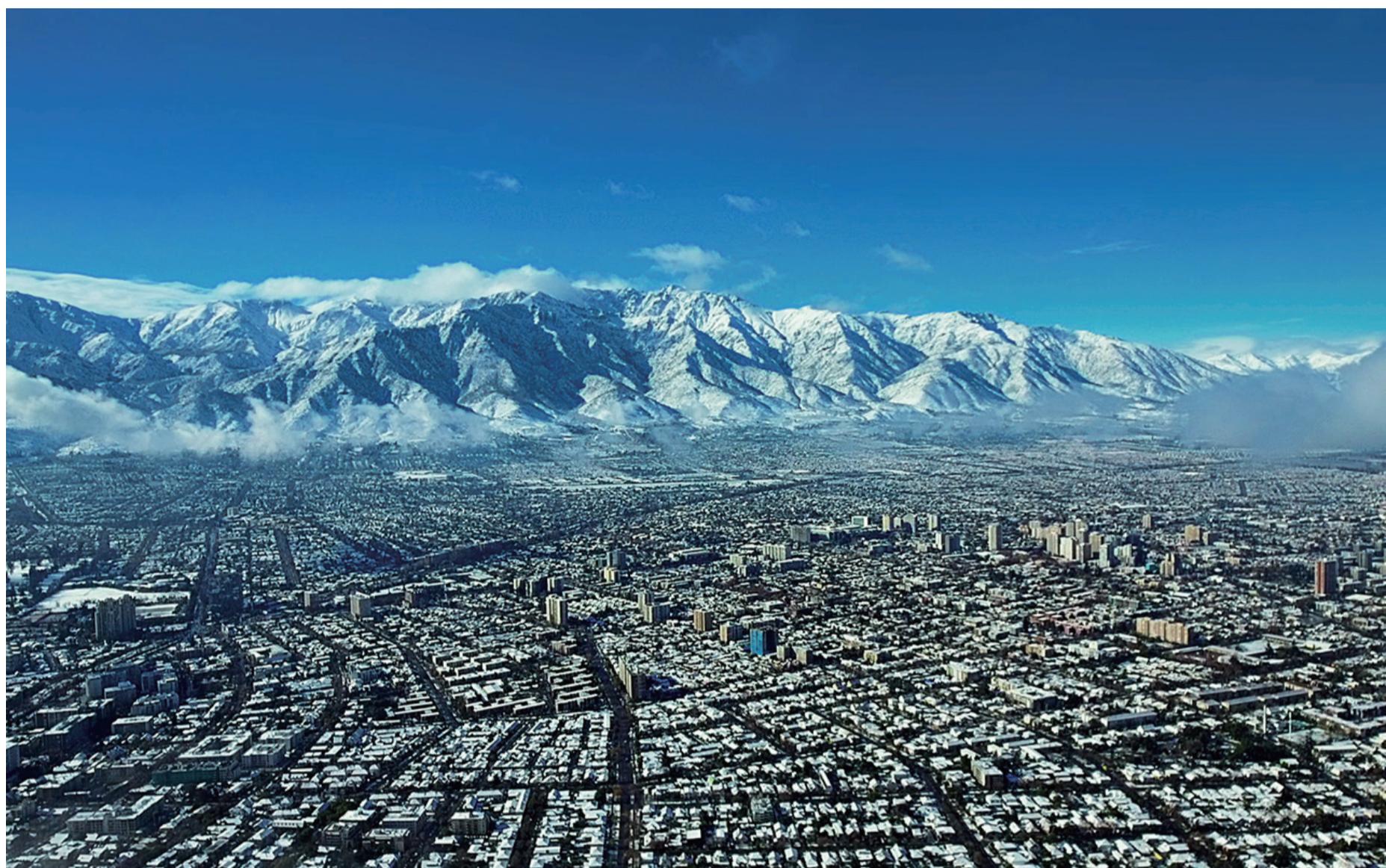


PICK UP MOVIE



(c) Atacama Productions – ARTE France Cinéma – Sampek Productions – Market Chile / 2019

夢のアンデス

[2019年／チリ・フランス・スペイン語／85分] 監督・脚本：パトリシオ・グスマン
出演：フランシスコ・ガシオウア、ビセンテ・ガハルド、パブロ・サラス、ホルヘ・バラディットほか

“喪失、記憶と記録、まだ終わらない悪夢”

絶望をこえ、過去と未来を見据え、どう生きるべきか、私たちの「今」を問う。
南米ドキュメンタリーの巨匠パトリシオ・グスマン監督作品『光のノスタルジア』『真珠のボタン』に続く、チリ弾圧の歴史を描いた3部作最終章。

チリの歴史的記憶と政治的トラウマを、その人為を見てきたアンデス山脈の神性との関係で描く三部作の最終章。世界で初めて選挙によって選出されたアジェンデの社会主義政権を、米国 CIA の支援のもと、ピノchetの指揮する軍部が武力で覆した軍事クーデター。3000人を超える市民が虐殺された。いまなお続くピノchetの遺産…新自由主義の実験の場となつた母國の行く末を憂いて、時間的・空間的距離を自在に飛翔するカメラとともに、グスマンとチリの人々は内省の旅を続ける。カンヌ国際映画祭最優秀ドキュメンタリー賞、インディペンデント批評家賞 W 受賞。

[上映日程] 11/20~12/3 (休映: 11/22, 29)

同時上映



光のノスタルジア

[2010年／フランス・ドイツ・チリ／90分]
監督・脚本：パトリシオ・グスマン

生命の起源を求めて天文学者たちが遠い銀河を探索する傍らで、行方不明になった家族の遺骨を捜す女性たち。永遠とも思われる天文学の時間と、独裁政権下で愛する者を失った遺族たちの止まってしまった時間。天の時間と地の時間が交差する。

[上映日程] 11/20~12/3 (休映: 11/22, 27, 29)

真珠のボタン

[2015年／フランス・チリ・スペイン／82分]
監督・脚本：パトリシオ・グスマン

海底でボタンが発見された——。そのボタンは政治犯として殺された人々や、祖国を奪われた先住民の声を我々に伝える。チリの超自然的ともいえる絶景の中で流れてきた多くの血、その歴史を、海の底のボタンがつまびらかにしていく。

[上映日程] 11/20~12/3 (休映: 11/22, 27, 29)

[鑑賞料金] 特別鑑賞料金(一般) ¥1,500／その他通常通り

*3部作すべてを鑑賞されたい方は回数券がおすすめです。

闘う人々の姿を、悠久の時のなかに刻む

上空からアンデス山脈が映し出される。息をのむ広大な美しさ。祖国チリを離れて 46 年になるパトリシオ・グスマン監督にとって、この山脈は唯一くつろげる場所であった故郷の象徴だ。

グスマン監督がチリを脱出したのは、1973 年の軍事クーデターのせいで。以来彼は異国で孤独にさいなまれながら、チリに関する映画を撮り続けてきた。しかし危険な祖国にとどまって闘い続けた人たちがいる。その一人、映画監督パブロ・サラスは、ピノchet軍事独裁政権の目を覆いたくなるような暴力を、身を挺して膨大な記録に残している。

だが彼らが語るチリの傷跡は実はもっと深く、日本に暮らす私たちにとっても決して他人事ではない。チリの軍事クーデターは、そもそもアメリカ政府の画策で引き起こされた。社会主義を掲げるアジェンダ政権を倒すためだ。クーデター後に生まれたピノchet政権は、アメリカ政府の意を受けて新自由主義経済政策を推し進めた。経済は一時的に活況を呈したものの、貧富の格差は極端に拡大した。さらに教育・福祉・文化の分野のみならず、人々の生き方にまで、利益最優先の価値観が浸み込んでしまった。

こうした先行きの見えない困難な現実を提示する一方で、グスマン監督は数百万年の歴史を刻むアンデス山脈に思いを馳せる。人間の営為を、自然や宇宙にまで視野を広げて見つめようというには、グスマン監督独特の姿勢だ。そこには、愚かしく見えるこの社会になんとか希望の光を見出したいとの願いが込められているように思える。監督が、天の時間と地の時間の交錯点でチリ弾圧の歴史を描いた前二作『光のノスタルジア』『真珠のボタン』も同時上映される。苛酷な歴史の記憶と美しい映像がまじりあう三部作の作品世界に、ぜひ浸ってみてほしい。

tamura shizue

田村志津枝

ノンフィクション作家。一方で大学時代から自主上映や映画制作などに関わってきた。1977年にファスピーダーやヴェンダースなどのニュー・ジャーマン・シネマを日本に初めて輸入、上映。1983年からホウシャオシエンやエドワード・ヤンなどの台湾ニューシネマ作品を日本に紹介し、その後の普及への道を開いた。